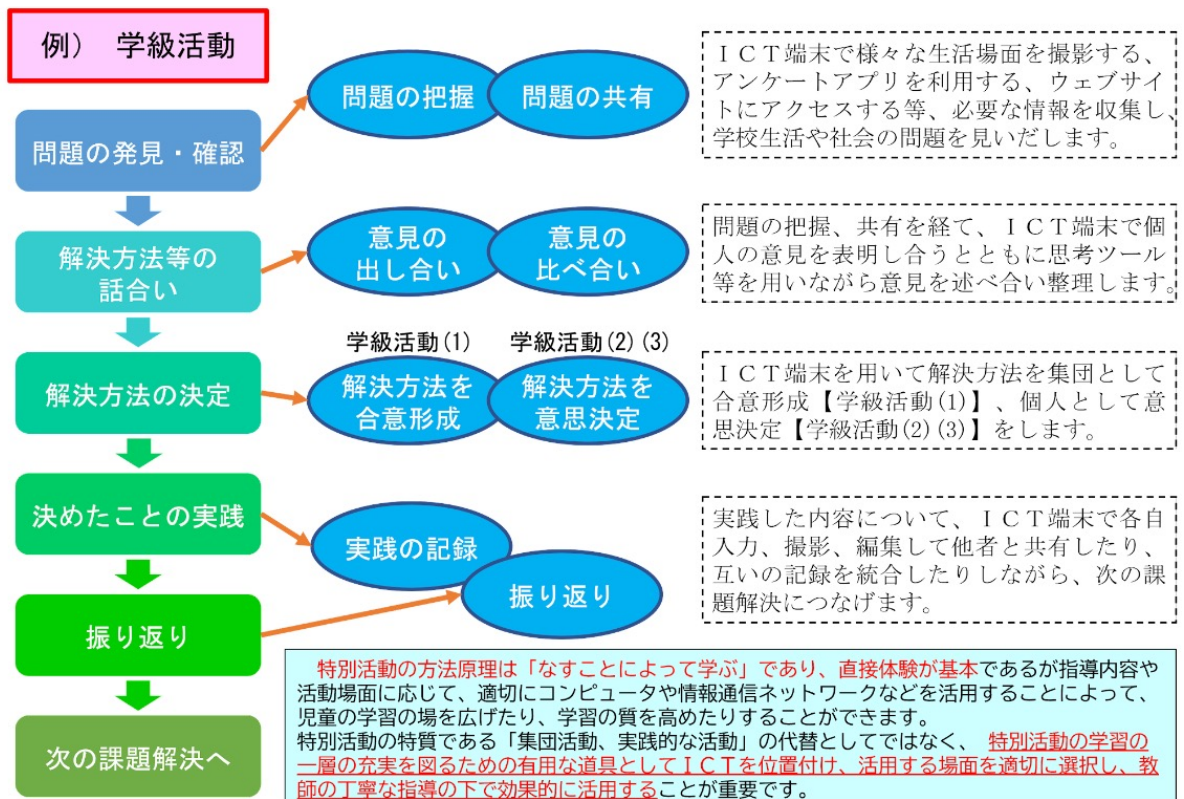


特別活動

特別活動の学習過程のイメージ



特別活動のICTの活用イメージ



学年・議題名：小学校6年・みんなが満足できる交流活動を企画しよう

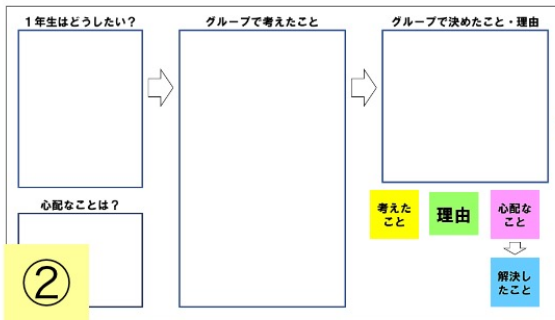
見方・考え方：学級の問題を捉え、よりよい人間関係の形成や集団生活の構築に結び付けること

ICTの活用：合意形成に向け、理由を示しながら案を出し合う際に活用
学習場面：話合いの目的を共有し班での協議を通じて活動を提案する場面

「提案」「整理・分析」「合意形成」に至るまでの流れと次の学びへのイメージ
姉妹学級との交流について、1年生にとっても6年生にとっても満足できる活動を企画するために、クラウドを活用して意見集約・共有を合理化し、必要な時間を十分に確保したうえで、班での話合いを通して、班で出し合った意見を整理したりまとめたりしながら、合意形成につなげていく。



事前に「交流会で楽しみにしていること」について教師が1年生にインタビューし、タブレット端末に録画した。授業の始めに、1年生のインタビューをスクリーンや端末で視聴し、「1年生のためにこんなことをしてみたいな」と交流活動について、自分の考えをもつことができた。児童が話合いへの必要感を高めたり、グループで焦点化し、よりよい合意形成につなげるために一人一人が考えをもったりすることにつながった。



グループで話し合う内容を焦点化したり、整理・分析をするために、デジタルホワイトボードを活用した思考ツールを教師が用意した。内容に応じて付箋の色を変えるなど、内容が見やすく伝わりやすいものになるように工夫したことで、児童は自分たちのアイデアを比べたりまとめたりしながら、話し合うことができた。よりよい合意形成につなげるために、発達段階に応じて児童が思考ツールを自分で選べるようにする。



自分の考えを入力することが主とならないように、合意形成を図るために自分の考えを述べることを大切にするよう事前に指導した。児童は必要に応じて活動内容や装飾の作り方、準備必要期間等について、インターネットを検索して調べ、自分の考えの根拠となる資料を提示しながら話合った。

この事例のポイント

- ・ 事前の活動で、ICTを活用して交流相手の声を聞く場を設けたことで、課題解決の必要性を共有し、課題解決に向けて自分なりの考えをもって、児童が話合いに臨むことができる。
- ・ 合意形成を図る過程で付箋ツールを用いることで、一人一人の意見が可視化され、意見の違いや多様な考えを受け入れて思考したり、少数の意見を取り上げて話し合ったりすることにつながる。